

独学の教室

読書猿 Dokushozaru

吉田 武 Yoshida Takeshi

ウスビ・サコ Oussouby SACKO

澤井康佑 Sawai Kohsuke

鎌田敬介 Kamata Keisuke

志村真幸 Shimura Masaki

青い日記帳 Aoi Nikki-cho

永江 朗 Nagae Akira

佐藤 優 Sato Masaru

柳川範之 Yanagawa Noriyuki

石塚真一 Ishizuka Shinichi

岡部恒治 Okabe Tsuneharu

深川峻太郎 Fukagawa Shuntaro

角幡唯介 Kakuhata Yuusuke

はじめに

本書は雑誌『koto ba』二〇二二年冬号（集英社）の特集「独学の愉しみ」を新書にまとめたものです。

二〇二〇年の春以降、新型コロナウイルスが猛威を振るうなか、集団での行動は制限され、必然的に「独り」でいることが多くなりました。そんな状況で、読書や映画鑑賞をはじめ、YouTubeへの動画投稿や個人で練習できる楽器演奏を始めるなど、新しい活動にチャレンジする人が増えたと聞きます。奇しくも、自粛生活は「独学」に向いていたということでしょう。

そこで浮かんでくるのは「なぜ自分で学びたいのか」という疑問です。デジタルツールの進化により、あらゆる知識やコンテンツが瞬時に引き出せる今、はたして自力で学ぶことに意味はあるのでしょうか？

本書を読まれた後なら、この問いにきつと「YES」と断言していただけるかと思いま

す。

本書には、独学の意義と方法から、英語、ビジネス、美術、読書、ノート術、漫画、数学、物理学、はては冒険まで、一四人の独学者による多彩な寄稿をまとめています。

すでに独学を実践されている方から、これから独学を始めようとしている方まで、きつと独学の指標・参考になることでしょう。

S F作家のアイザック・アシモフは、「独学こそが、唯一の教育だと固く信じる」という言葉を残しています。ノンフィクション作品も合わせると五〇〇を超える作品を著す一方、生化学者として大学教授も歴任した碩学せきがくの言葉からは、「独学」という文字に漂う孤独感を感じられません。先人に学び、後人に託す。独学とは、一つのコミュニケーションとも言えるのかもしれませんが。

さて、それではいよいよ、独学の教室の開講です。

目次

はじめに

3

Part 1
独学の真髄を味わう

読書猿(独学者)

10

独学者を阻む薄い壁

吉田 武(京都大学工学博士)

26

独学とは再帰なり 選ばれし者から選びし者へ

ウスビ・サコ(京都精華大学前学長)

自力で学ぶ「自学」のすすめ

44

澤井康佑(文筆業、英語講師)

大金不要、ネイティブ無用 独学最強の英語学習法

60

鎌田敬介(Amos 取締役専務CTO)

日本の「仕事人」をとりまく独学環境

79

志村真幸(比較文化史研究者)

独習者、南方熊楠の驚異の記憶力

91

青い日記帳(美術ブロガー)

独学だからこそ身につく いちばんやさしい美術鑑賞術

105

永江朗(フリーライター)

独学本のススメ

120

Part 2
私の独学、私と独学

佐藤優(作家)

独学の秘訣 記憶を再現するためのノート術

136

柳川範之(経済学者)

苦しい学びは続かない

152

石塚真一(漫画家)

独学の漫画家、独学のサックスプレイヤーを描く

169

岡部恒治(数学者)

社会人のための数学独学法

深川峻太郎(ライター、編集業)

私はなぜ相対性理論を独学したのか

角幡唯介(作家、探検家)

冒険と独学

おわりに

P a r t 1

独学の真髄を味わう

技術革新がもたらすツールの進歩と学問分野の細分化に伴い、
学びの選択肢が増え続ける今、時代の要求も絶えず変化し続けている。
プロフェッショナルが語る「独学の現在地」に耳を傾ける。

読書猿

独学者

独学者を阻む薄い壁

どくしょざる 独学者。一九九七年にメールマガジン、二〇〇八年にブログ「読書猿 [Classic]」を開始し、古今東西の書物から、ツイッタ―の投稿まであらゆるテキストについて思索を深めている。著書に『アイデア大全』『問題解決大全』（共にフォレスト出版）、『独学大全』（ダイヤモンド社）がある。

「自分が苦手なことを克服するために本を書いているような気がします」
みずから発想したことの間違いや嘘を捉えることこそが、第一歩を踏み出すきっかけになると言う。この世界における「独学」の意味をあらためて聞いた。

——二〇二〇年秋に刊行された『独学大全』は、二〇万部を超えるベストセラーになりました。これほど売れたことを、ご自身ではどう分析なさっていますか。

読書猿 想定外でびっくりしています（笑）。部数もさることながら、手にした人たちが本書で取り上げたテクニクをすぐに実践して、それをどんどんSNSにあげている。ぼくの書く本は「道具箱なんで、使ってナンボですよ」といつも言うんですが、今回はそんな必要はありませんでした。

独学する人たちは、マスとしてまとまりのあるかたちでは見えなかったけれど、多分ずつといたんです。学校に行けなくても、周囲の人に笑われたとしても、それでも知りたいと思う心、学びたいという気持ちは止めようがない。いま、ある原稿のために日本の独学書を明治時代まで遡さかのぼって読んでいるのですが、「独学」がそこまで古い言葉ではないこと

がわかりました。日本がまだ新しい国だった頃、学校を急に増やすことができないなかで進学の機会は限られていた。それでも学ぶことに飛び込んでいった人たちが脈々といたんです。

『独学大全』はいま生きている人だけでなく、過去のそうした名も無き独学者たちとつながっている。そういう地下鉄脈ともいえるものに、たまたまぼくの本が突き当たったということだと思います。さらに遡れば、例えばぼくらがソクラテスのことを知ることができるのは、翻訳や写本などいろいろな人たちの手を経てその知を受け継いでいるからですね。学ぶことでその脈々とした流れを実感できるんです。

独善に陥らないための独学

——読書猿さんの使う「道具箱」という言葉が印象的です。コンピュータの世界でも「ツール」という言い方がありますが、そのあたりとの関連はありますか。

読書猿 ぼくにとってはとても自然な着想だったので、あらためて発想の根源を尋ねられると、はつきりしません（笑）。

ただ、ぼくはずっと本を読むのが苦手で、その代わりに辞書を読んできたんですけど、辞書類のことを中国語で工具書というんですね。ああ、自分ももし本を書くことがあるなら工具書になるべきだろう、と。それはずっと思っていました。

『独学大全』はビジネス書やノウハウ本として紹介されることも多いのですが、そういった書籍の多くは、著者が考えたベストな筋道を提供するというスタイルで書かれます。ぼくの場合、たくさん道具を幕の内弁当みたいに詰め込んで、「この道具箱のなかから組み合わせ使ってください」というかたちになっている。Aさんには「1、2、3、4」がいいかもしれないけれど、Bさんには「4、5、6」がいい、ということがあり得ると思ったからです。こちらでルールを敷くのではなく、読者自身が組み合わせ使うほうが末長く使えるよね、と考えました。そのあたりは、UNIXというOSを生み出した人たちの哲学から多少なり影響を受けているかもしれません。

——「独学」には、独善に陥る危険性につきものだと思いますが、それについてはどう考えますか。

読書猿 確かに独学には独善的になったり、陰謀論に陥る危険もある。そうしたなかで独

独学の教室
読書猿 他

発行：集英社インターナショナル（発売：集英社）

定価：946円（10%税込）

発売日：2022年8月5日

ISBN：978-4-7976-8107-9

ネット書店でのご予約・ご注文は [こちらにどうぞ！](#)